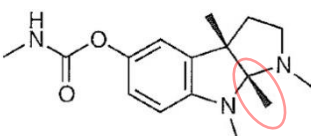
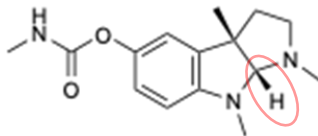
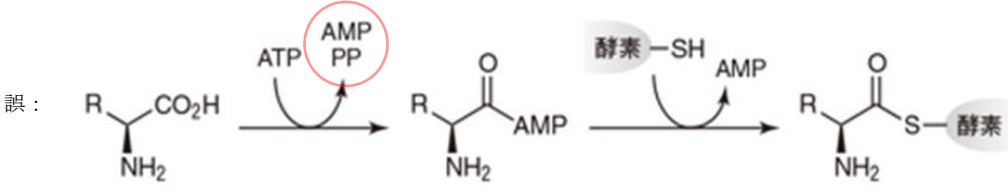
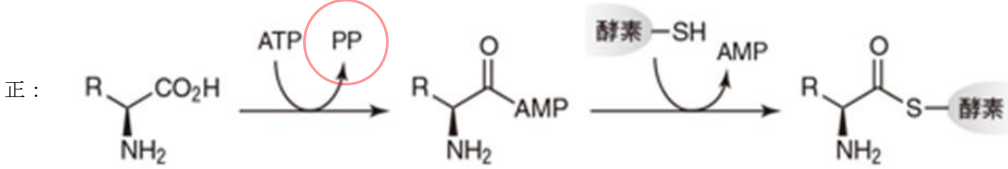


“基礎講義 天然物医薬品化学 アクティブラーニングにも対応” 第1刷

正誤・補遺 (2022年5月現在)

該当箇所	誤 (変更前)	正 (変更後)
p.7, 1行目	微小管に結合して不安定化し	微小管を構成するチューブリンに結合して重合を阻害し
p.12, 9行目	生成した化合物	精製した化合物
p.15, 下から2行目	サリチル酸 (図 1・2 参照)	サリチル酸 (図 4・6 参照) 注: 図 1・2 のサリチル酸は半合成, 図 4・6 は生合成
p.19 2・2・2 の 11 行目	エネルギーを消費する発エルゴン反応	エネルギーを放出する発エルゴン反応
p.47, 5行目	プロピオン酸を出発単位	プロピオニル CoA を出発単位
p.51, 1行目	チューブリンのβ-サブユニットに結合して微小管の脱重合を促進	β-チューブリンに結合して重合を阻害
P51, 3行目	微小管を不安定化する	微小管の重合を阻害する
p.59, 2行目	キナ酸, プロトカテク酸, 没食子酸	キナ酸と没食子酸
p.59, 4行目	シキミ酸 (さらに遡れば)	3-デヒドロキナ酸 (さらに遡れば)
p.75, 下から2行目 p.77, 8行目 p.77, 10行目 p.77, 4・5・2 の 2行目	メバロン酸経路	イソプレノイド経路
p.84 5・2・3 の 2行目	分子内の二重結合に求核反応する	分子内の二重結合に求電子反応する
p.110, 最下行	メバロン酸経路により生合成され, 動物ではスクアレン	動物では, メバロン酸経路により生合成されたスクアレン
p.128 6・2・1 の 4行目	アルデヒドが生じ, Schiff 塩基 (イミン) を形成	アルデヒドが生じ, 分子内で第二級アミンとイミニウムイオンを形成
p.131, 4行目	イミンの形成	イミニウムイオンの形成
p.133 6・3・2 の 5行目	Schiff 塩基形成	イミニウムイオン形成
p.138, 3行目	N-メチル化された(S)-レチクリン	N-メチル化されて生じる(S)-レチクリン
p.138 図 6・13 タイトル	ベンジルイソキノリンアルカロイド類の生合成	ベンジルトetraヒドロイソキノリンアルカロイド類の生合成
p.142, 下から3行目	ベンジルイソキノリンの分子内での	ベンジルトetraヒドロイソキノリンの分子内での
p.148, 図 6・25	 フィゾスチグミン	 フィゾスチグミン

p.167 下から3行目	モジュール型触媒配列をもつ	モジュール型構造をもつ
p.168, 図6・50(b)	<p>誤：</p> <p>正：</p> <p>(左側の矢印の上の AMP を削除)</p>	
p.172, 6行目	末端アミンに結合している	末端に結合している
p.186, 左段 下から3行目	ブレバトキシシン B	ブレバトキシシン